

中間答申後に開催した各説明会の概要報告

市病院事業局は、令和 5 年 2 月 9 日付けで提出された中間答申を尊重し、市立 2 病院の医療機能再編に取り組んでいます。以下のとおり中間答申受領後に説明会を開催しました。

開催年月日	会議名等	対象者・参加人数等
令和 5 年 2 月 9 日	市立病院診療管理会議	市立病院管理職等 約40人
令和 5 年 2 月 9 日	本吉病院病棟会	本吉病院看護師・看護補助者 15人
令和 5 年 2 月17日	市議会民生常任委員会協議会	市議会民生常任委員会委員 8人
令和 5 年 2 月20日	本吉地区小規模法人連携事業協議会と本吉病院との懇談会	本吉地区小規模法人連携事業協議会委員 24人
令和 5 年 3 月10日	市立病院と市立本吉病院のあり方に係る院内説明会	市立病院職員 40人
令和 5 年 3 月22日	市立病院と市立本吉病院のあり方に係る院内説明会	市立病院職員 34人
令和 5 年 3 月27日	市立病院と市立本吉病院のあり方に係る院内説明会	市立病院職員 38人
令和 5 年 4 月12日	市立 2 病院のあり方に係る説明会	本吉地域の介護・福祉事業所職員 約45人
令和 5 年 5 月23日	市立 2 病院の医療再編に係る住民説明会	気仙沼市民 約50人

※このほかにも会議や集会等で説明しており、今後も必要に応じて対応します。

市議会民生常任委員会協議会（令和5年2月17日開催）

主な質疑応答

	質問内容	回答
1	本吉地域の小規模施設の方々が救急時の対応について不安になっている。	本吉病院が必要と判断したうえで入院させており、市立病院も同じである。
2	退院の時、新たに施設を探すのに時間がかかると福祉施設の人が心配している。市立病院から施設に行くまでの期間を本吉病院が繋いでいるという認識だが。	本吉病院も一般病棟であり、長く入院はできない。地域包括ケア病棟の方が長く入院できる。本吉病院がクッションになっているというが、それを調整するのが地域包括ケア病棟であると考えており、その運用は本吉病院のスタッフにお願いしようと考えている。
3	総合診療は、市立病院で市立病院の医師が担っていくものと思って議論した。	市立病院の一部の医師と本吉病院の医師が総合診療を担う。それでも足りないので育成するという考えである。
4	本吉病院は17時過ぎまで外来を受付しているが、市立病院の受付時間はどのようになるか。	市立病院の変更は考えていない。本吉病院は現在の診療体制を維持するので、午後診療は実施する。
5	総合診療医は市立病院にいない。齊藤院長が市立病院に行きっぱなしにならないかと心配している。	そのようなことがないよう齊藤院長も考えており、地域包括ケア病棟も本吉の外来も診ることができる方法を検討する。
6	本吉病院の在宅医療を継続し、市立病院と民間医療機関と協力のもと、段階的に全市に広めるとされているが、そのスケジュールを示す予定はあるか。	現段階で示せるスケジュールはない。本吉病院はほぼ本吉地域を担っているが、北部については、民間医療機関の先生からも意見を聞いて、市立病院が担えるようにしていきたい。

市立2病院のあり方に係る説明会（令和5年4月12日開催）

主な質疑応答

	質問内容	回答
1	本吉病院は嘱託医として健康診断や事後指導等で協力いただいている。再編によって、嘱託医継続はどうなるか。	引き続き、協力病院・診療所として対応する。市立病院が既に協力病院になっている施設もあるので、現在と遜色ない対応ができると考えている。
2	入院機能がなくなると人員体制はどうなるか。	現在、入院業務に従事している職員は市立病院へ異動となるが、本吉病院の外来・訪問機能に必要な職員はそのまま残すことになる。
3	人材確保が難しい中で医師の確保はどうするのか。	今年度から本吉病院の総合診療医は5人体制だが、市職員は1人で、他の4人は派遣職員である。この地域で総合診療医を育てて、残ってもらうことが目標の一つである。
4	本吉病院へ入院できれば近くてよいが、市立病院へ行くのが大変だとよく聞くので、行き来するための対応は考えているか。	家族の面会は、コロナが5類に移行しても、当分の間は制限が続くと思う。市立病院ではオンライン面会を常時行っており、面会のあり方も変わってきていると思う。
5	高齢者の家族で交通手段がないため、行き来が難しい方がいる。交通手段の確保について、考えていただきたい。	交通手段の確保については、担当部署に伝える。
6	これまでの救急車対応は継続されるのか。緊急時の受入はどうなるのか。	平日昼間なら、通常の外来で対応できるものは従来どおり対応する。夜間、休日は、休日当番医の輪番を継続するが、休日当番以外は市立病院の救急対応となる。
7	昔なら入院する状態であっても、多くの利用者が自宅で最後まですごしている。夜間などに亡くなった場合、週末でも朝に往診・死亡確認などしていただいているが、今後、引き続き同じ対応ができるのか。	今後、本吉病院は在宅療養支援診療所の施設取得を予定しており、24時間365日の看護師対応は今より強化されと考えている。急な看取りは今までと一緒である。最期が近づいてきたとき、自宅では心配なので病院でお願いする場合も、地域包括ケア病棟はそういった患者に対応するのも一つの役目なので、市立病院に救急搬送していただくことで、心配なく最後まで看取る。

市立 2 病院の医療機能再編に係る住民説明会（令和 5 年 5 月 23 日開催）

主な質疑応答

	質問内容	回答
1	入院機能を存続させるため、もっと財政支援するなど努力はしたのか。	入院機能を残すためには、まずは医師の働き方改革を解決しなければならず、多くの医師が必要になる。現在は 5 人体制で診療を行っているが、これでも働き方改革への対応は難しい。なお、今回の医療機能再編は財政の議論ではないことをご理解いただきたい。
2	訪問診療は絶対守られるのか。	外来診療と訪問診療を絶対守ることが前提となって話は進んでいるので、安心していただきたい。
3	本吉病院に入院機能があれば、家族や近所の方の面会が容易になる。医療技術以外の面もあると思う。	入院機能が残せるのであれば残したいが、現状では厳しいと言わざるを得ない。お見舞いについては、コロナが 5 類になったとはいえ、まだまだ感染者が多くおり、両院は面会を再開していない。今はオンラインで面会を行っている。面会の形も徐々に変わってきていると感じている。
4	地域包括ケア病棟は本吉病院につくればいいのではないのか。	看護師不足で、2 病院の入院機能を維持することは不可能な状況になっている。入院機能が集約されることで、専門科に繋ぎやすくなり、リハビリも充実されるメリットも感じていただきたい。地域包括ケア病棟を本吉病院にとの話だが、地域包括ケア病棟の骨組みは本吉病院のスタッフが担っていく。
5	本吉病院には震災後多くの研修医が来ているが、定着度はどうか。	本吉病院の医師のうち 1 名が総合診療医として勤務している。本吉の医療としては 1 名だが、全国の地域医療の芽を育てていると考えており、当地域の定着率については今後の課題だと考えている。
6	地域包括について、本吉病院は震災後、地域包括の様々な取組を行ってきたが、今後、継続していくのか。	数回、介護福祉施設の方々と意見交換を行ったが、現在の関係性は継続していくと説明している。本吉病院が本吉地域で行っている地域包括ケアの拠点という考え方を全市域に広げたいというのが今回の再編理由の一つである。

	質問内容	回答
7	年配の方から医療従事者の育成に力を入れるよう市長に伝えてほしいと話があった。ここで学んだ人がよそに行ってしまうのは非常に残念である。	看護専門学校は、指定校制度で市内の高校生が入学しやすいようにしており、奨学金を支給し、市立病院で働けば免除することもやっている。奨学金がなくても、もともと年間授業料は民間と比べ破格である。市立病院に就職しなくても、ここで学んだ人が帰ってくるケースは間々あるので、学校は維持していきたい。
8	障害を抱える方々から、時期や時間に関係なく治療が必要な時、受入れてくれる本吉病院はありがたいと話された。市立病院への入院は大丈夫なのか不安である。	今でも市立病院の先生方は必要な医療を提供しており、本吉病院も規模は小さいができる範囲で、在宅も含め尽力している。本吉病院の訪問診療の特徴は、乳児から高齢者まで年齢を区切っていないこと。特に、気仙沼市内は小児の訪問診療が不足しており、本吉病院が担当している。再編した場合、これまでできなかったことができるよう考えていけることも拡充だと思っている。
9	本吉病院は老朽化している。建替で、外来がなくなることはあってほしくない。	建物が古くなったから病院をやめるということはない。
10	病棟が無くなることで、本吉病院の体制がどのようになるのか心配している。齊藤院長が地域包括ケア病棟と本吉の両方をみるということで大変激務になるのではないかと、外来と在宅医療が現在の状態で推移されていくのか不安。	介護福祉施設への説明の時も、入院機能を再編することで、本吉病院の職員がガラガラにならないかという話をされた。入院を担当している看護師は市立病院に異動するが、それ以外の職員を残し、現在の外来と訪問診療の機能を落とさない体制をつくる。齊藤院長の業務については、確かに両方みるのは大変だと思うが、宿日直はほぼなくなると思うので、大変になる部分をできるだけカバーしていきたいと考えている。
11	訪問診療について、気仙沼市全域を網羅するとき、対象患者と必要スタッフの見通しはどうか。	訪問診療について、本吉地域は引き続き本吉病院が対応していく。中間答申は人材を育成しつつ、段階的に拡充していくとなっている。市立病院は訪問診療の経験がある看護師が少ない。本吉病院の看護師から、ノウハウ、マインドを伝播してもらい、市立病院の看護師を育成していくのが、先ず必要と考えている。その上で、気仙沼・唐桑地域は民間医療機関がかなりの部分を網羅しているので、連携し住み分けしながら進めていきたい。